

週刊 SSH（4月11日）

マクロン大統領との交流

4月1日、東京大学生産技術研究所（LIMMS）において、フランスから訪日中のフランス共和国エマニュエル・マクロン大統領との交流が行われました。生徒たちは、これまでのフランスサイエンス研修での学びを踏まえ、エネルギー政策や国際協力について質問しました。マクロン大統領は一つひとつの質問に真摯に向き合い、丁寧に答えてくださいました。今回の貴重な交流を通して、生徒たちは国際社会への関心を一層高め、大きな刺激を受ける機会となりました。

《参加生徒の感想》

4月1日の午後、東大駒場キャンパスIIで、私は昨日にフランスから来日していたマクロン大統領にお会いすることができました。翌日まで数日間フランスに滞在していた私にとって、それは身に余るほどの非常に光栄な機会でありました。フランスでの滞在中、私は核融合発電計画を国際的に行うITER（国際熱核融合実験炉）を訪れ、核融合技術について学びました。ITERへ膨大な金額を出資し、ITERのホストにあたる国であるフランスにとって、ITERへの期待は大きいと私は確信していた。だから、この貴重な機会にマクロン大統領に対して何を期待しているのか直接インタビューしました。その結果、閣下はITERに対して、核融合やレーザーなどの重要な技術の開発および非常に素晴らしい国際的協調の場の例を期待していることがわかった。大統領もITERに対して前向きなお考えをお持ちであることに心から喜ばしかったです。これからもITERは核融合技術の最先端、そして国際協調の場として活躍してくれるだろうと感じました。

